大分県文化財調査報告書　第123輯

大分上野丘高校管理棟増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

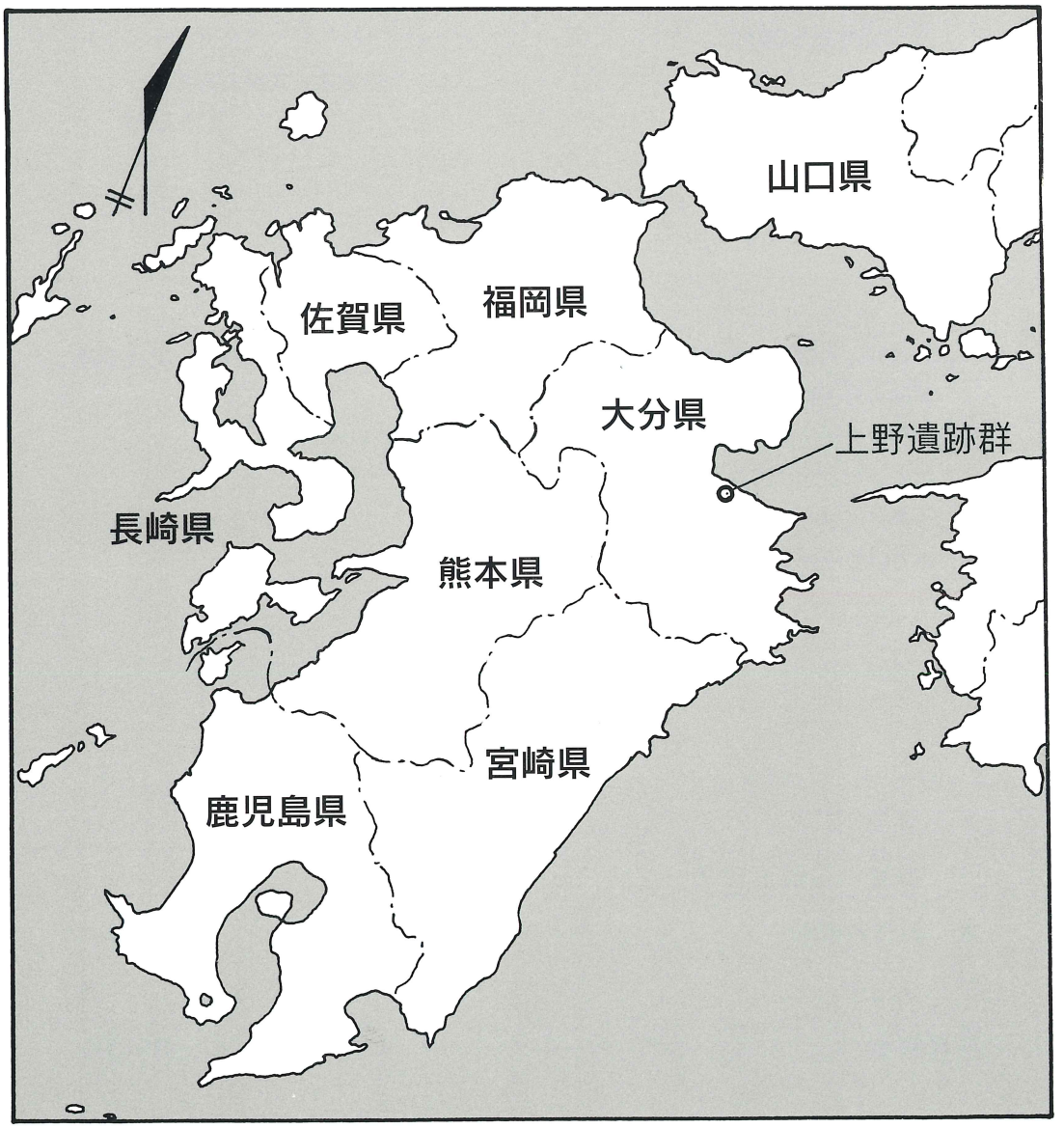
上野遺跡群
大分上野丘高校地区

2001

大分県教育委員会

大分上野丘高校管理棟増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

上野遺跡群
大分上野丘高校地区



序　文

本書は平成12年度に実施した大分上野丘高校管理棟増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録です。

高校の所在する大分市上野丘は大分市街の南側に位置する丘陵地で、古代豊後の国府想定地です。隣接地には古国府遺跡群、中世大友城下町跡、大友氏館跡等の大分の歴史を語る上で欠くことのできない遺跡が分布しています。

発掘調査の結果、古代を中心とする遺構・遺物が発見されましたが、この成果は当地域の歴史を解明する上で重要なものです。今後、本書が埋蔵文化財に対する保護・啓発並びに学術研究の一助となれば幸いです。

最後に、今回の発掘調査に多大なるご協力をいただきました関係各位に対して、衷心より感謝申し上げます。

平成13年３月30日

大分県教育委員会教育長
田中恒治

例　言

1．本書は、大分上野丘高校管理棟増築工事に伴い大分県教育委員会が実施した上野遺跡群大分上野丘高校地区の発掘調査報告書である。
2．遺物の整理作業は大分県教育庁文化課文化財資料室で行った。
3．出土遺物並びに図面・写真等は文化財資料室において保管している。
4．本書に用いた方位は真北である。
5．本書の執筆は栗原眞・染矢和徳が、編集は栗原が行った。

目　次

Ⅰ　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ　遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅲ　調査の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Ⅳ　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
写真図版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9～10

Ⅰ.はじめに

調査の経緯と経過

大分県教育庁理財課が計画した大分上野丘高校管理棟増改築工事の存在が平成12年（2000年）６月に明らかとなった。予定地は周知遺跡であるため文化課では工事前の６月21日に立会い調査を行い、現地表下にある盛り土の下に掘り込まれた遺構やそれに伴う古代の遺物を確認した。このため工事予定範囲について緊急に発掘調査を実施することとなり、以下の組織で調査を行った。調査後、現地は工事を実施し、管理棟北側の張出し部を増築した。

調査の組織

調査主体 大分県教育委員会	教育長	田中　恒治
調査担当 大分県教育庁文化課	課長	山本　芳直
	参事兼課長補佐	伊藤　正行
	同	清水　宗昭
	主幹兼埋蔵文化財第二係長	栗田　勝弘
	埋蔵文化財第二係副主幹	高橋　信武
	同	栗原　　眞（調査主任）
	嘱託	東保　春奈
	同	平野真由美

調査の経過

発掘調査は平成12（2000）年７月24日から８月11日に行った。調査区は管理棟増築部本体（A区　7.4m×18.5m）と支柱部分（B区　3.4m四方）の二ヵ所に分かれる。まず重機によりA区の地表のアスファルトを剥ぐと、現在の鉄筋校舎を建てる以前の校舎のコンクリート基礎が現われ、縦横に溝状の掘方が走っていた。内部には多量の礫が敷き詰められており、その排出に手間取った。遺構確認面は地表下約70cmにあり、北西から南東に延びた溝状遺構１条と柱穴の類多数を検出した。B区には建物基礎はなくA区よりもやや低い地表下100cmに遺構検出面があり、土坑・柱穴類を検出した。

Ⅱ.遺跡の位置と環境

大分平野は北以外の三方を山地で囲まれ、中央に大野川、西部に大分川がそれぞれ北流する。上野遺跡群は大分川の流れが形成した西部の丘陵上に位置する。周辺の歴史的環境は旧石器時代にさかのぼる。上野遺跡群東端の竜王畑遺跡では２万年位前の流紋岩製の石器が出土している。縄文時代の遺跡は大分川にかかる府内大橋から広瀬橋下流の河原に散布している。これは周辺の沖積地深く包含される遺物包含層が洗い出されたものかと考えられる。丘陵上では竜王畑遺跡で約3,000年前の晩期の遺物が発見されている。弥生時代になると丘陵上に竪穴住居跡（竜王畑遺跡）が見られ、低地部では先述の大分川河原・若宮八幡宮遺跡・東大道遺跡（中国製鏡片）と遺跡が増加する。古墳時代は竪穴住居跡（竜王畑遺跡）の他に、丘陵上に古墳（大臣塚古墳・千人塚古墳・飯盛塚古墳）が、丘陵斜面には横穴墓群（南太平寺・岩屋寺）が造られる。

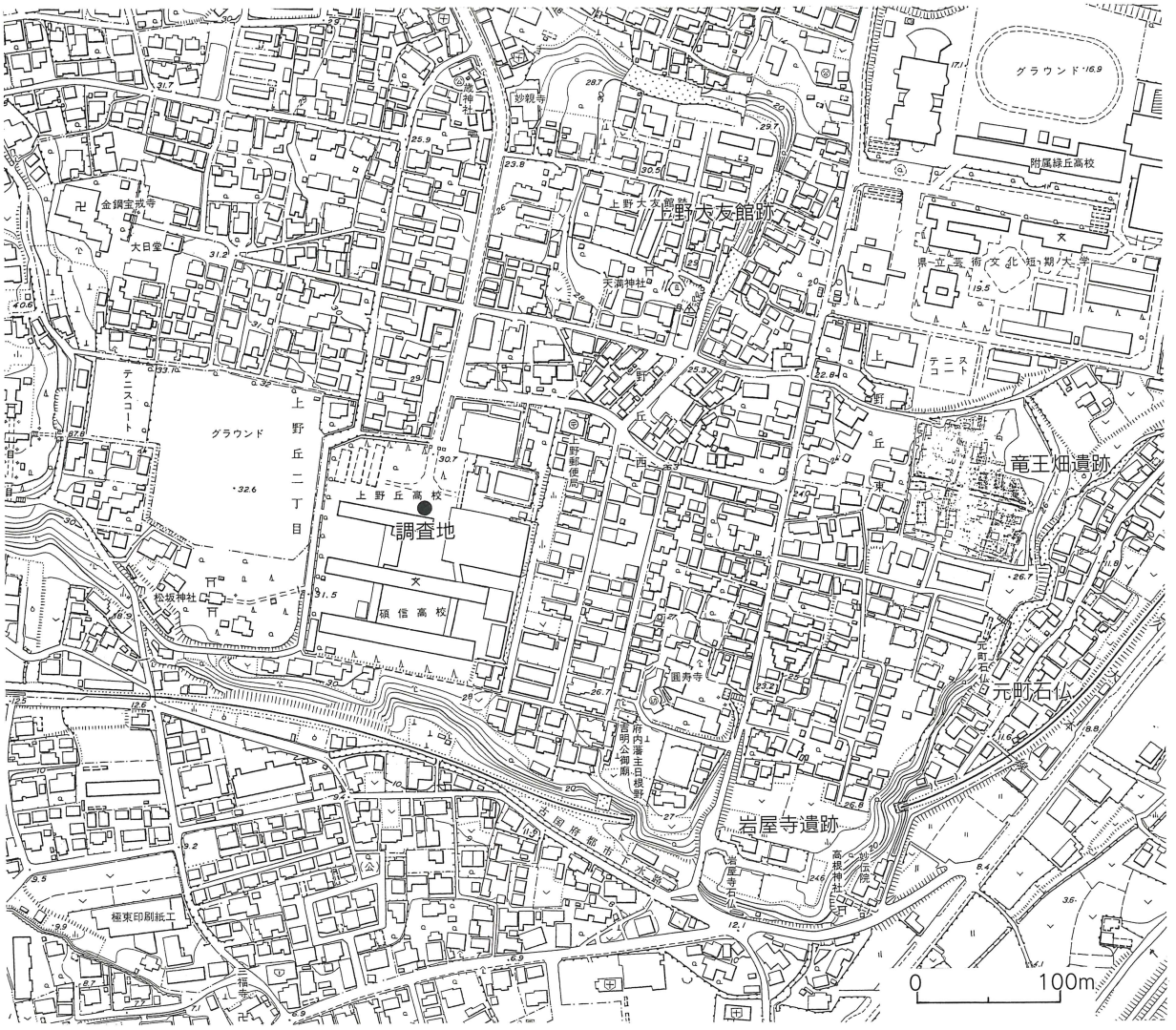
上野丘陵周辺は大分市内でも古代遺跡の多い場所である。まず、飛鳥時代の畿内系横口石室をもつ古宮古墳がある。低地部の羽屋井戸遺跡からは郡役所に先行する評衙関連遺跡が検出された。奈良・平安時代には上野墓地公園に東隣する場所で版築基壇を伴う礎石建物跡が多量の古代瓦と共に出土し、古代寺院があったらしい（上野廃寺）。豊後の国府所在地はどこか、江戸時代以来多くの説は低地部

第1図　上野遺跡群と周辺遺跡の位置図

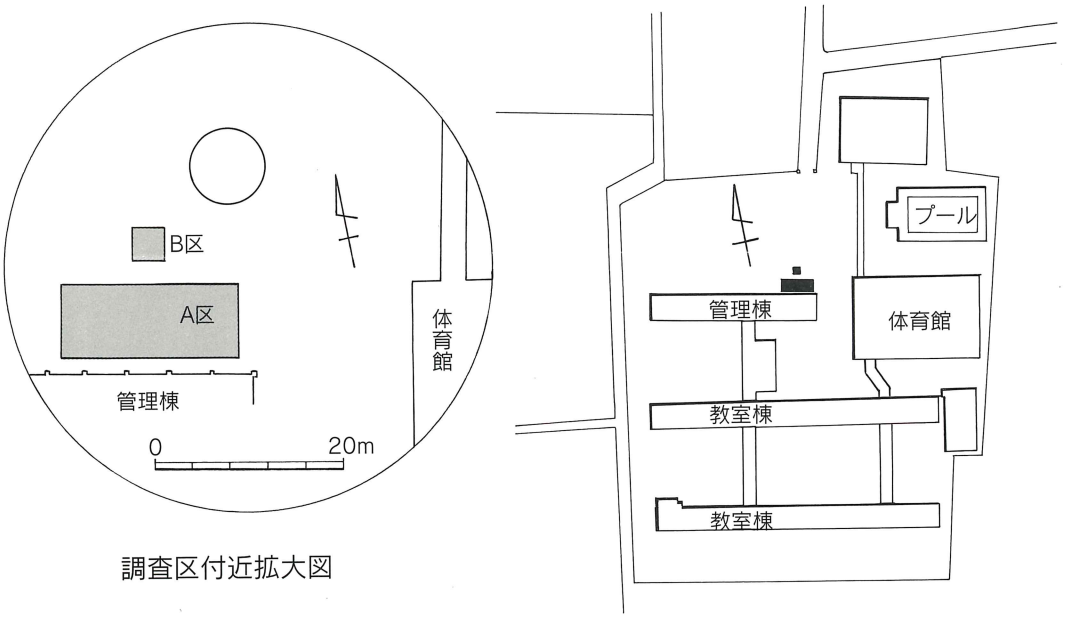
の古国府地区に想定してきたが、度重なる発掘調査にも関わらず低地部では関連遺構は未確認であった。1987年の「大分市史」では現状の道路の配置状況から上野丘面の中央部（上野丘高校所在地）に国府政庁を想定した。近年調査された竜王畑遺跡では、7世紀末から10世紀前半頃にかけて４期に渡る官衙的遺構が検出された。そのうち９世紀の築地塀を伴う遺構は豊後国司の館跡の可能性が指摘されている。また、丘陵の崖面には平安時代の石仏群が点在している（元町、岩屋、伽藍各石仏）。以上、最近の発掘調査結果によれば、国府の所在地は低地部ではなく丘陵上にあった可能性が高く、なかでも上野丘高校所在地は最も重要な地区であろう。

中世には約200m四方の大友氏館跡が丘陵北端に構築された。町は大分川左岸の低地部に位置し、近年、大分駅周辺整備等・民間開発に伴う発掘調査が始まっている。

近世には上野丘陵の北方、海岸寄りに府内城下町が造られ、現在の市街の中心となる。高校の前身、大分中学校は明治26（1893）年に建て始められている。調査区の位置には昭和39（1964）年に県指定文化財となった本館があったが、６年後に解除・解体されている。

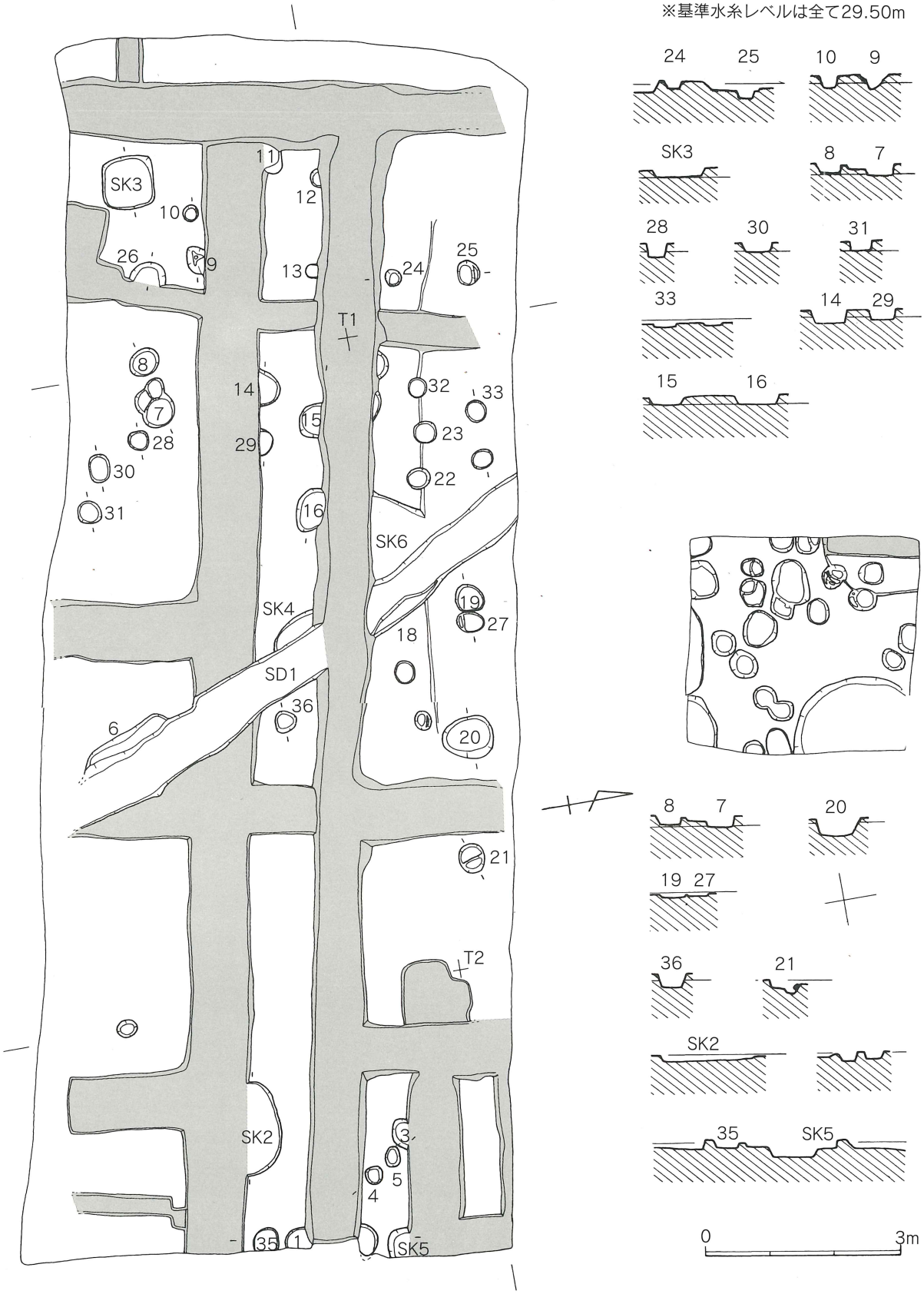


第2図　調査区周辺地形図



調査区付近拡大図

第3図　調査区の位置図



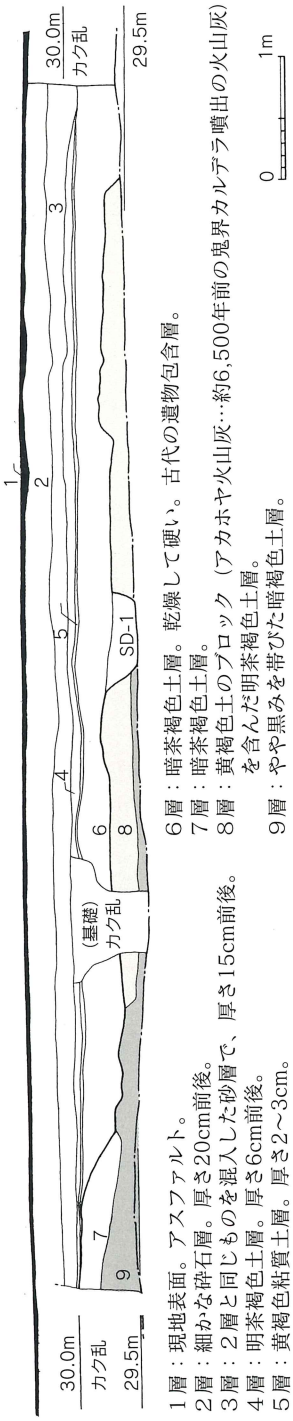
第4図　上野遺跡群大分上野丘高校地区遺構配置図

Ⅲ.調査の成果

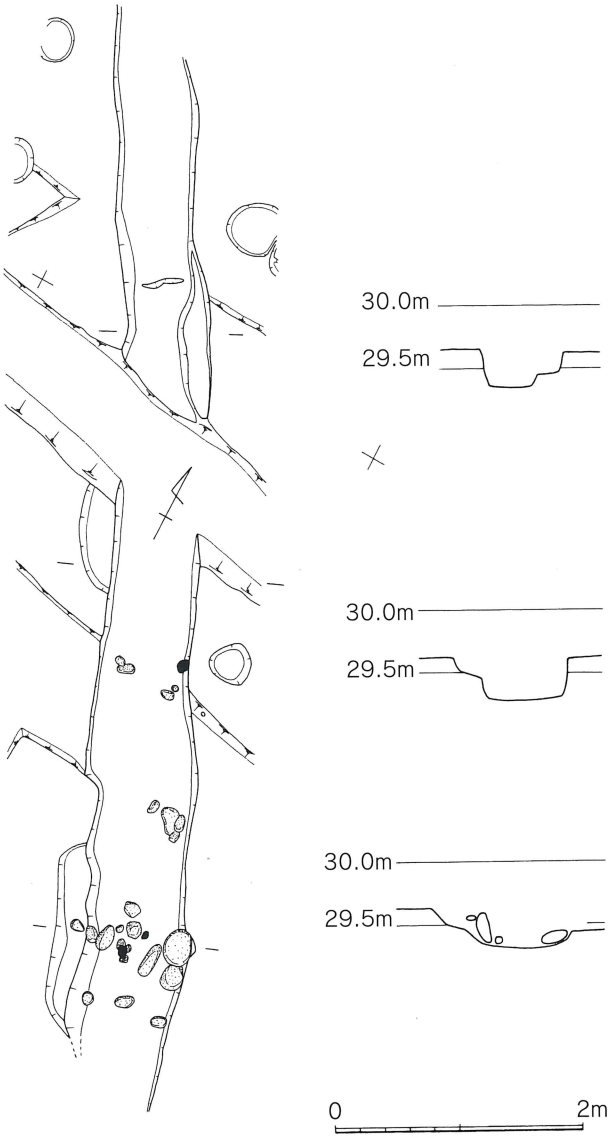
1.調査の概要

第５図はA区北面の土層図である。地表面から５層までは近現代の客土で、図中の４層上面から掘り込まれた攪乱層は水道管埋設溝である。６層・７層は古代の遺物包含層で、古代の遺構は８層上面で検出した。ほぼこの８層上面まで重機によって剥ぎ取り、人力により遺構検出を行った。調査区は明治26（1893）年以降現在まで学校用地として利用されている。第３図の網掛け部は学校用地として利用されてからの建物基礎や水道管埋設溝等の攪乱部分である。

A区（第４図）　検出した遺構は溝状遺構１条（SD1）とやや大型の穴４個（SK2～4・6）および柱穴類41個である。SD1は幅60cm～80cm、深さ約30cmの直線的な溝状のもので、北から西に26度振れた方位をもつ。底面の高さは南北で差はない。埋め土は黒褐色土で、内部の南部で円礫が出土した他、第７図１～３の須恵器が出土した。第９図５～10は６層・７層の遺物包含層から出土したものである。第９図１はNo20の、３は

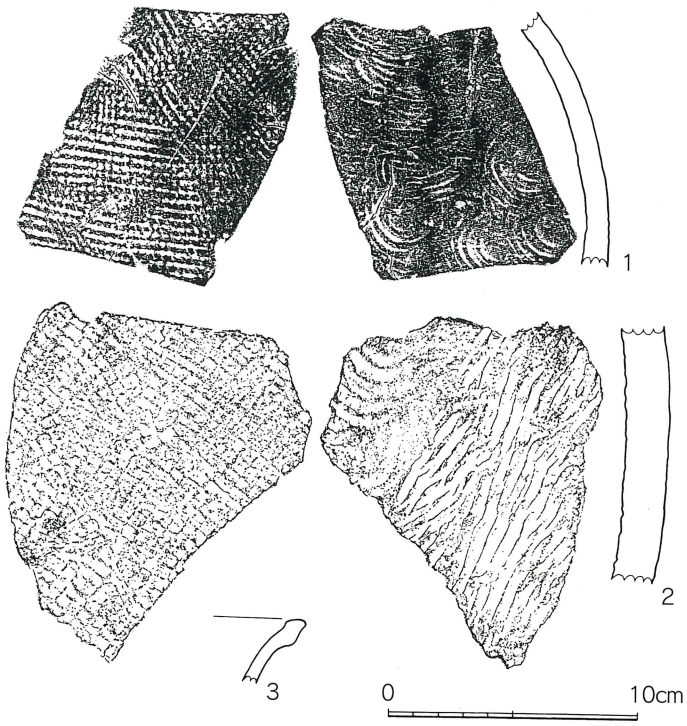


第5図　A区土層図



第6図　A区溝状遺構

No1の、４はNo6の柱穴から出土した。５～10はA区の包含層から出土したものである。５は須恵器、６は外面調整不明、７は外底面はナデ、その他は横ナデ、８は外底面板状圧痕、その他は横ナデ、９は糸切り底である。10は須恵器質の緑釉陶器で、外面の下半以下底面も削り出している。表面は全て釉がかかっている。底径8.3mm。第10図１・２はP1出土。１は18世紀前半から中頃の肥前磁器碗を打ち欠いたもの。２は陶器の胎土に染め付けした碗で１と同時期の粗製品。



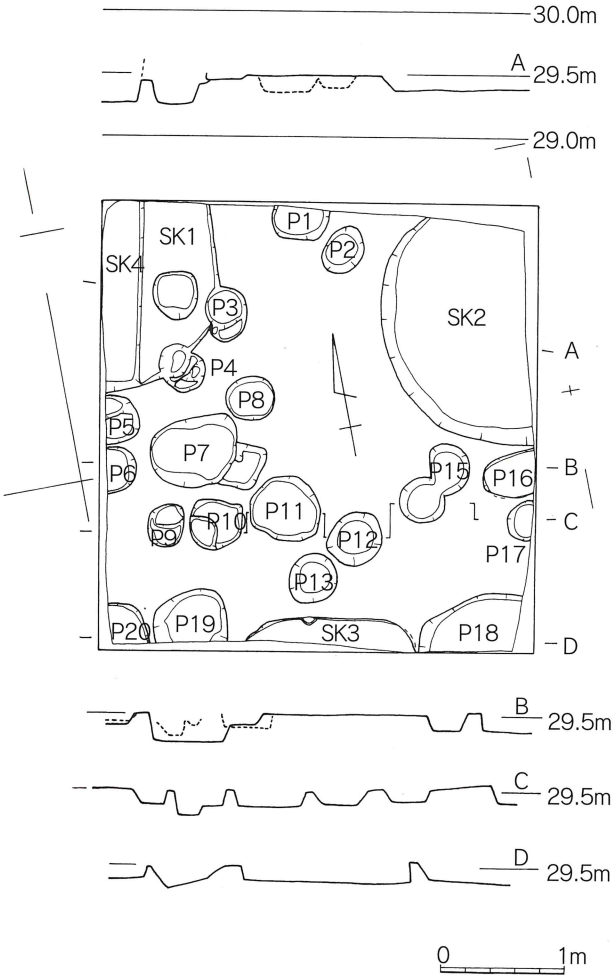
第7図　1号溝状遺構（SD1)出土須恵器実測図

B区（第８図）

B区遺構検出面には近代以降の建物基礎はなく、柱穴・土坑を多数検出した。SK1の西部に切り込む現状で溝状のものは当初SD1として採り上げ、遺物に注記したが土坑（SK4）であろう。ここから多量の遺物が出土した（第10図３～８）。３は砂の付着した畳付以外はやや青みがかった白釉がかかる磁器。口径7.4cmで器高3.7cm。４～６は蓋付き碗であろう。型押し整形で上下とも外底面に小さな刻印があるが、読めない。青水色の染付けが口縁部にあり、「桜に碇」の染付け文がつく。口径・器高はそれぞれ（16.4cm・7.8cm）・５（16.5cm・7.7cm）・６（15.2cm・6.5cm）である。７は口径29.2cm、器高26.0cm底径17.2cmの陶器製植木鉢で調整は全面ナデ、８も同様で口径20.8cm。

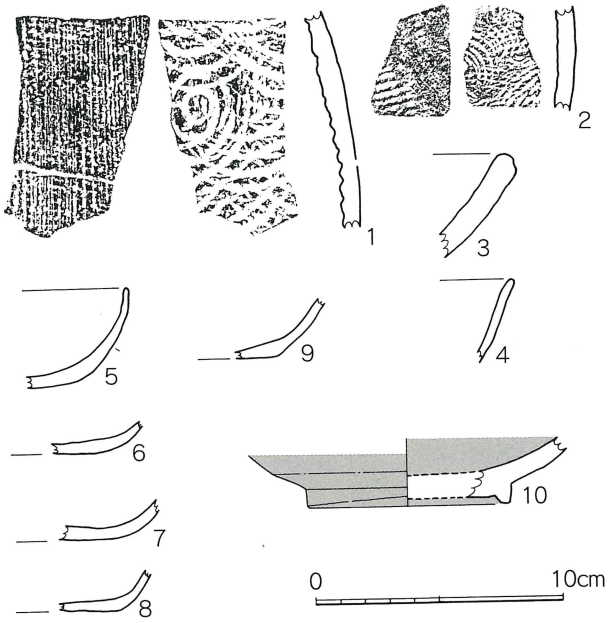
SD2の遺物は1945年頃のゴミ穴であろう。第９図２はB区のSK2出土の須恵器の甕破片。

B区で検出した遺構は大多数は古代に

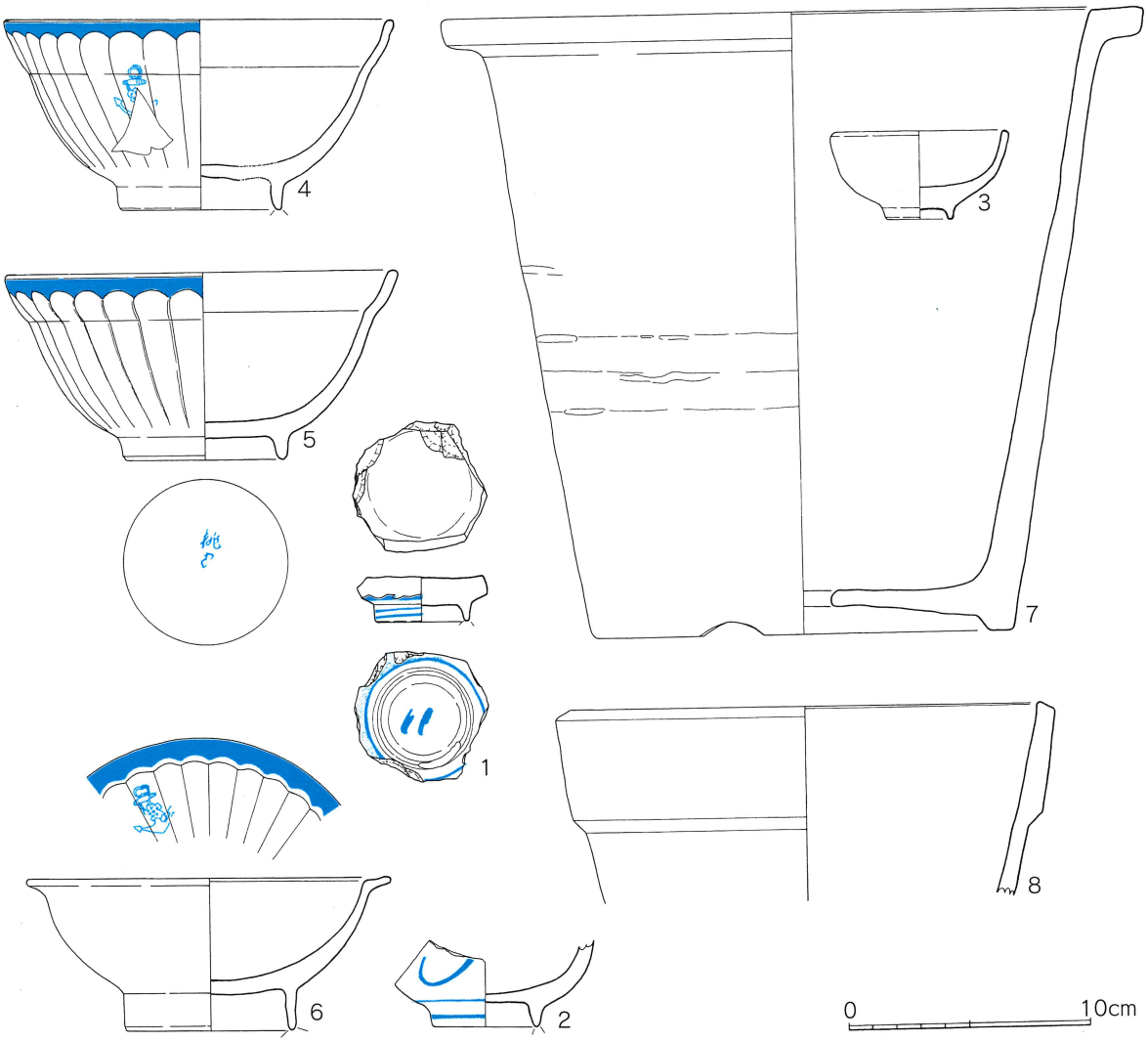


第8図　B区の遺構

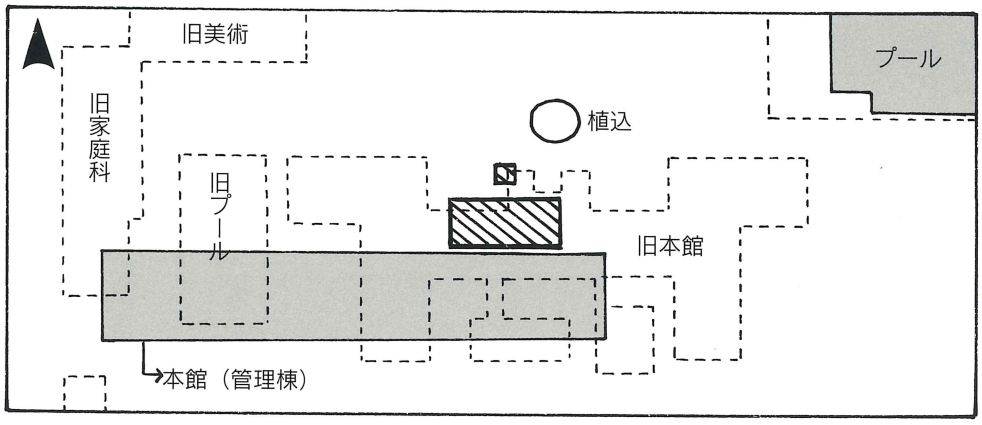
属すと考えられるが遺物は少ない。詳しくは今後の周辺の調査によって追認されるであろう。



第９図　A区出土遺物実測図



第10図　B区出土遺物実測図



第11図　調査区（斜線）と新旧建物の位置

Ⅳ.ま　と　め

B区のSK4から出土した磁器碗はその「桜に碇」の紋様からみて軍事関係のものであろう。『「上野丘百年史」大分県立上野丘高等学校1986』に、昭和20（1945）年に海軍共済病院として校舎の一部が接収されたという記述が見られ、これを裏付けている。

江戸期のものとしては小さい穴から陶磁器類が少量出土しているが、一般的な遺物である。これ以外の確実な遺構は見あたらない。

A区は明治26（1893）年に大分中学校の本館として建てられた建物の基礎工事によりかなり攪乱されていたが、古代の遺跡が全面に残っていた。板状圧痕のある土師器（第９図８）は平安時代後期の11～12世紀頃の可能性がある。糸切り痕をもつ９も10世紀以降のものであろう。緑釉陶器は奈良時代末から平安時代初期の９世紀代の畿内産のものであり、比較的に貴重品である。上野丘高校の敷地全体は豊後国府の政庁想定地とされており、今回の調査結果はその想定に反しないものである。

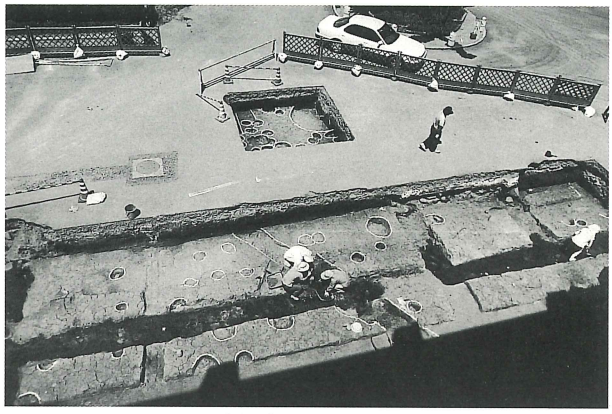
A区で検出した溝状遺構は北から西に26度振れる特徴をもつ。同じ上野丘陵で調査した竜王畑遺跡では７世紀末から10世紀にかけて４期の変遷が把握できたがこのような方位の遺構はなかった。調査区の遺跡の詳細な性格は調査範囲が狭かったため明らかでないが、今回明らかになった遺存状態から、機会あるごとに調査を重ねれば明らかにすることが可能であろう。

参考文献

大分県立上野丘高等学校1986「上野丘百年史」 1986
出田和久　1987「国府と国分寺」『大分市史』大分市
池邊千太郎　1990「上野遺跡－金剛宝戒寺東側における発掘調査報告書－」大分市教育委員会
讃岐和夫他　1996「羽屋・井戸遺跡」『大分市埋蔵文化財調査年報』７　大分市教育委員会
塩路潤一他　1998「国指定史跡大分元町石仏保存修理事業報告書」大分市教育委員会
高橋信武　1999「大分県大分市上野遺跡群竜王畑遺跡」『日本考古学年報』50　日本考古学協会

調 査 区 全 景

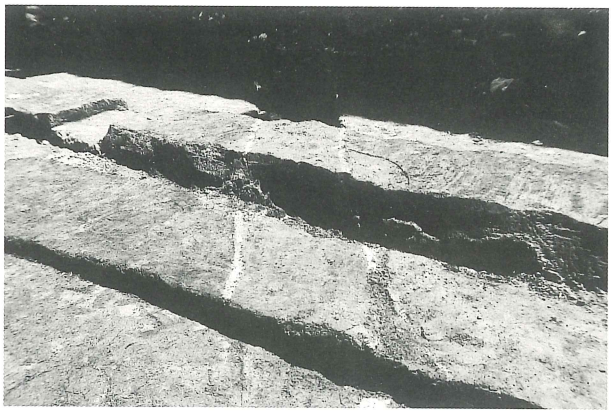
調 査 風 景



調査区近景

A区の遺構検出状況

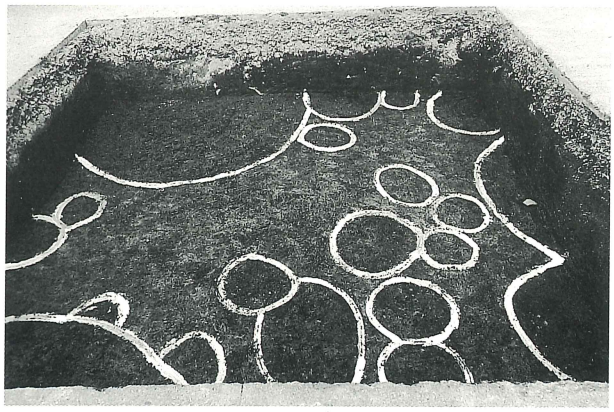
A区の作業風景



A区のSD1

A区のSD1近景

同左実測風景



B区近景

同左実測風景

フリガナ	ｳｴﾉｲｾｷｸﾞﾝｵｵｲﾀｳｴﾉｶﾞｵｶｺｳｺｳﾁｸ
書名	上野遺跡群大分上野丘高校地区
副書名	大分上野丘高校管理棟増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	——
シリーズ名	大分県文化財調査報告書
シリーズ番号	第123輯
編集者	栗原　眞　　染矢和徳
編集機関	大分県教育委員会
所在地	〒870-0021　大分県大分市府内町3-10-1
発行年月日	2001年3月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ｳｴﾉｲｾｷｸﾞﾝ 上野遺跡群 ｵｵｲﾀｳｴﾉｶﾞｵｶ 大分上野丘 ｺｳｺｳﾁｸ 高校地区	ｵｵｲﾀｹﾝ 大分県 ｵｵｲﾀｼ 大分市 ｵｵｱｻﾞｳｴﾉｶﾞｵｶ 大字上野丘 2-10-1	442011	322047	33° 13′ 7″	131° 36′ 48″	20000724 ｜ 20000811	130m²	大分上野丘高校管理棟増築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上野遺跡群 大分上野丘高校地区	包蔵地他	古代 近世 現代	溝状遺構　土坑　ピット群 土坑 土坑	緑釉陶器 瓦 陶磁器 軍関係磁器椀	

大分県文化財調査報告書第123輯

上野遺跡群
大分上野丘高校地区

大分上野丘高校管理棟増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成13年3月30日　発行

編集・発行者　大分県教育庁文化課
〒870-8503　大分市府内町3-10-1
TEL 097(536)1111 (内)5501

印刷所　(有)久恒日昇堂印刷